

3月13日、東日本大震災追悼レセプションでの城守総領事挨拶

紳士・淑女の皆様、本日はお忙しいところをお越しいただき、ありがとうございます。

あの大地震から早や1年経ちました。去年の3月11日、14時46分、日本の東北地方の東130kmの海の、深さ24kmで、マグニチュード9.0の地震が発生しました。日本列島のあるプレートの下に、太平洋プレートが潜り込んだのです。結果、海底で2-30mの移動が見られ、日本の東海岸はアメリカ大陸に約1m近くなり、東京は28cmアメリカ大陸に近くなりました。この様な大地震は千年に一回とも言われており、極めて稀な地震です。

今回の震災では、地震そのものより津波が問題でした。その高さは多くの所で10mを越え、最も水位が高かったところでは40mにまで達しました。この高さはわれわれの想定を越えるもので、これが大災害を引き起こしました。その際の様子は当時良くテレビ等で放映され、皆様もよく覚えていらっしゃると思います。また、この津波が、福島原子力発電所の事故ももたらし、放射能の問題を引き起こしました。

さてこの大震災の被害は、東日本の海岸線で500km以上に及びました。最近の統計では15854名が亡くなっておられ、心より冥福をお祈り致します。未だに行方不明者の方が3272名おられます。当時避難した人々は34万人に上りました。全壊した家屋は約12万8千戸、半壊・一部破損した家屋は約93万戸、インフラや家屋・建物等の物的被害額だけで約17兆円とされています。

この様な大惨事に際して、ミラノはじめ北イタリアの要人、諸団体・会社、イタリア人の方々、日本人の方々から、本当に多大のお心遣いをいただきました。当時のテストマンティ枢機卿はドウオーモでミサを行っていただきました。これも当時のモラッティミラノ市長は、直ぐ私を呼んで弔辞と励ましを下さいました。ポDESTA県長官からも直接励ましをいただきました。当地の諸外国の総領事、様々な団体や方々から、直接に、また書簡等で励ましを続々といただきました。

ミラノや北イタリアの各地では、追悼やチャリティー活動が活発に開催され、募金箱が設置されました。全部は紹介できませんが、一部申し上げます。地域柄、チャリティーコンサートが各地で多数開催されましたが、最も多く開催したのは Isola di Speranza という団体でしょう。パレーゼでは地域の画家の方々が絵を書いて下さり、これを展示即売するチャリティーがありました。多くのデザイナーの方がアイデアを絞って募金箱を作り、これを展示して募金を募るものもありました。写真展や様々な活動

の一部を義援金として下さる例もありました。Venica venica 社ではチャリティーワインの販売が続けられており、3月26日 Verona での Vinitaly で最終結果が発表される予定です。ミラノのアメリカンスクールでは、生徒がお金を募り送金して下さいました。中でも大きな活動は、トリノのユベントスのキャプテンである、アレッサンドロ・デルピエロ氏が始めた Ale10friendsforJapan です。Tシャツの販売を中心とした募金活動で、昨年秋に締めくくられ、約2万枚のTシャツ売り上げを中心に、約30万ドルの募金が集まり日本に送られました。またインテルの長友氏やノバラの森本氏など、当地で活躍される日本のスポーツ選手もチャリティー活動を行っていただきました。

これらの浄財を受け入れるため、当館は専用の銀行口座を設置しました。なお義援金は、その全部がそこに寄せられたわけではありません。デルピエロ氏のケースや、主催団体が東北とつながりがあるような場合は、直接日本や関心ある地域に送られてきた義援金があります。これらを別として、当館の口座に送られてきた義援金だけで計270件、ユーロで6桁の義援金が寄せられ、日本の赤十字に送られています。

本日は、当地で様々な激励をして下さった方々、チャリティー活動をして下さった方々、義援金を当館に寄せていただいた方々を中心にお招きしています。本来ならば、日本の支援に関連して活動された全ての方々をお呼びしたいところですが、物理的にそうも行きません。また私も知らない所で尽力された方々も沢山おられると思います。これらの全ての方々が寄せて下さった日本への篤いお志について、本日、日本総領事として、日本政府として、また日本の被災民、国民に代わり、厚くお礼を申し上げます。

かような日本への篤い思いはイタリアだけでなく、世界中から日本に寄せられていて、国際社会の暖かい連帯に対し、今世界中の日本大使や総領事が感謝の意を表しています。去る3月8日には、ローマで河野大使がレセプションを開催し、ナポレターノ大統領がご臨席されました。

世界及び日本国内からの義援金は、1月末で計3466億円に達しました。そして、未だに世界中から義援金が寄せられ、ボランティアや有名人が東北地方を訪れ、励ましています。この大震災1周年の機会に、我々日本人がなすべきことは、世界中へ感謝を申し上げるとともに、この被災地の復興に全力を尽くしていく決意をお伝えすることでしょう。

本日はあちらに30枚の写真パネルを用意しました。ここでは、被災直後の状況と、その後の復興ぶりが対比できる事例を用意しましたので、是非ごらん下さい。またこれら写真は、本日から当館のHPでも閲覧できるようになっています。これらはホンの一例

です。今回の地震の被害地は約500km以上に及び、復興が思うように進まない地域もあります。日本政府は、今年3月までの2011年財政年度中に、4回の追加予算を組み、計約20兆円を地震・津波被害の対策と放射能対策に充てて来ました。また2012年予算でも様々な対策を講じており、一刻も早い復興を目指して努力しています。また被災地の各地方自治体や被災民は、日本や世界中からの支援と一緒に、懸命に回復に尽力しています。では、完全な復興は何時かと言うと、被災した地域が非常に広いこともあって、何年もかかるでしょう。しかし、来年は、さらに復興した日本を皆様にお伝えできますでしょう。

一度落ち込んだ日本経済も今年はプラスになると言われています。放射能問題も沈静化して来ています。あの福島県内でも、特定のホットスポットを除き、1時間あたり0.1 μ Sv以下の箇所がほとんどとなり、ローマが0.25 μ Svとされていますから、それより低い数値となっています。福島県以外となれば、放射線はもっと低くなりますから、今日本に滞在するのは全く問題がありません。

日本の食品には残存放射能が見られるものもありますが、国際的レベルより厳しい新たな基準が設けられ、これを超えるものは市場に出回りませんから、日本国内の食べ物、輸出された食べ物は安全性が確保されたものです。ミラノでは、ほとんどの日本食製品が欧州で生産されていますから、元より安全の問題はありませんが、日本からの輸入品でも問題はありません。

この様に、福島県の一部の危険地域を除き、放射能問題は沈静化し、食物等についても安全性が確保されています。もう日本は安全な国、震災前の状況に戻っていますので、是非安心して日本に行き、ビジネス、観光、留学等安全な日本を楽しんで下さい。

本日は、多少日本食を用意してあります。東北産の日本酒もわずかですがあります。またBiscaldi社がアサヒビールを提供してくれました。どうぞゆっくりご賞味下さい。またお帰りには、出口に被災地の民芸品をご用意しているので、一つお持ち帰り下さい。なお、その内の一つは「起き上がりこぼし」と言って、どう倒しても必ず起き上がる人形であり、現在の我々の心のシンボルでもあります。

Grazie.